

## A Case of the 10 days

### Case 340

## 盲腸周囲内ヘルニア

## 盲腸内ヘルニア

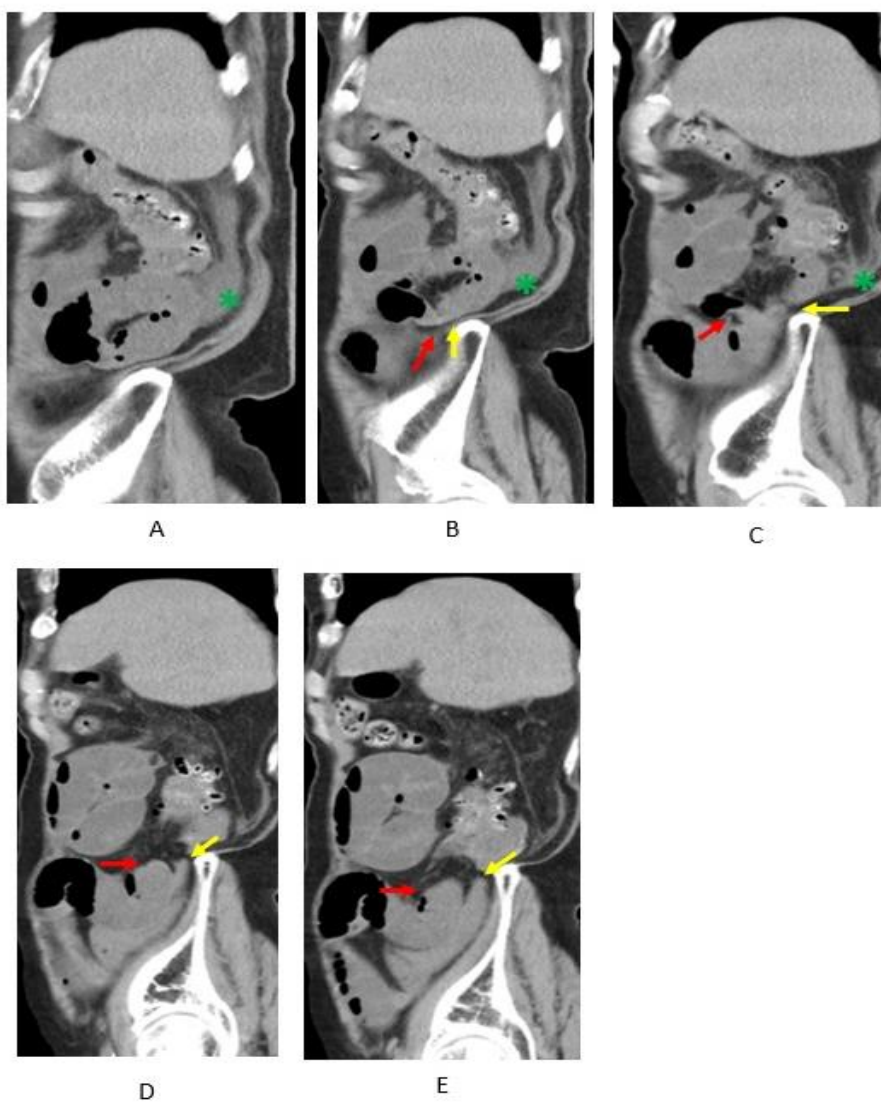
- ・全内ヘルニアの13%
- ・傍結腸溝: 盲腸と上行結腸の外側、背側
- ・盲腸間膜の欠損(先天性と後天性)から回腸が滑り出し突出
- ・右下腹部に位置  
虫垂の異常と紛らわしく、要鑑別
- ・急速に絞扼イレウス: 75%死亡率との報告

## 盲腸間膜内ヘルニア 80代 男性

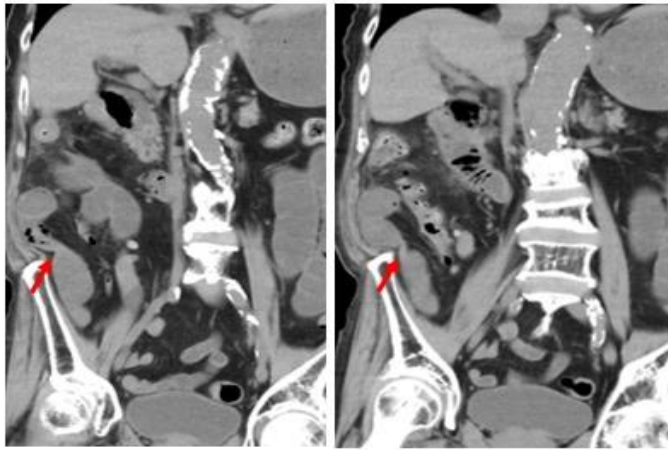
- ・ 2023年 12月下旬  
#右坐骨骨折
- ・ 2023年 12月下旬  
嘔吐があったとcall  
腹部: ope scarあり ope scarは右上腹部 縦に走行  
軽度膨満、打診で鼓音、圧痛なし、腸蠕動音亢進  
カルテやケアマネの情報では、既往歴に記載なし 何のope後かは不明  
入院時の腹部CTで、ペッツなどは確認できず。明らかな心血管ステントなし  
虫垂は残存 胆のうはなさそうであるが、萎縮しているだけの可能性も  
術後イレウスの可能性あり

# 盲腸周囲内ヘルニアの見つけ方

- まず、小腸の拡張で内径が30mm以上の確認
- 大腸の状況の把握
- 盲腸の位置: 外側に小腸の有無の存在
- Closed loop の確認、Double beak signの確認
- 本例の盲腸周囲内ヘルニアでは矢状断でのみClosed loop signがみられた

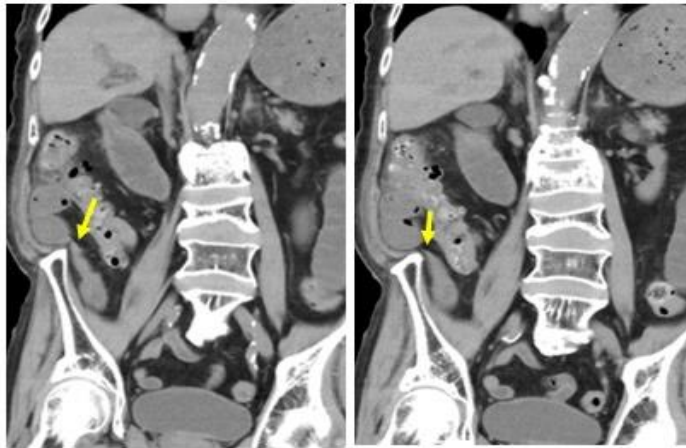


矢状断像で盲腸背側にclosed loop signがみとめられる(A)。赤矢印は拡張腸管と拡張腸管にbeak sign が認められる。黄色矢印は拡張腸管と収縮腸管にbeak signが認められる。



A

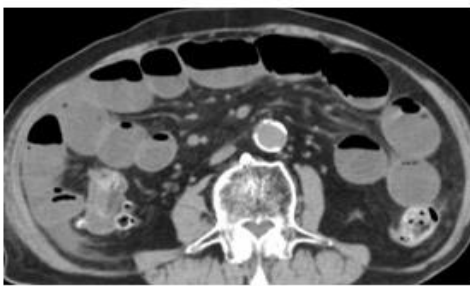
B



C

D

盲腸外側に拡張した腸管が認められる。  
 赤矢印のbeak signは拡張腸管と拡張腸管、  
 黄色矢印のbeak signは拡張腸管と収縮腸管が認められる。  
 どちらも近接している。



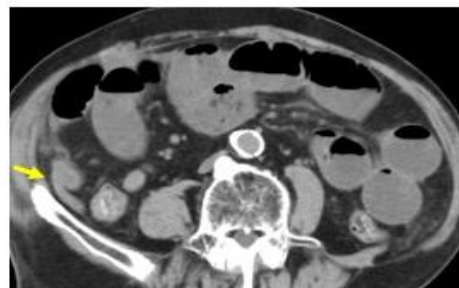
A



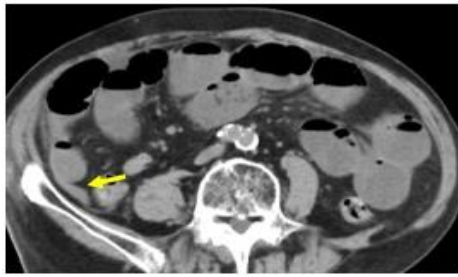
B



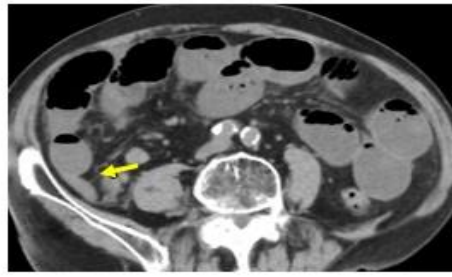
C



D

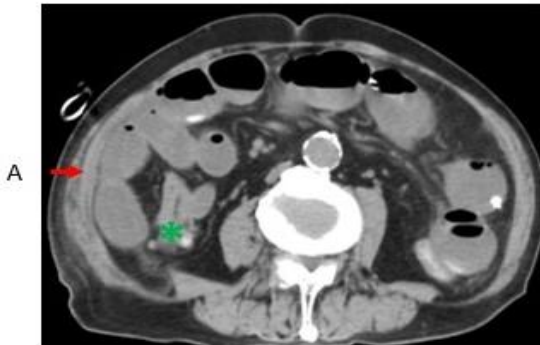


E



F

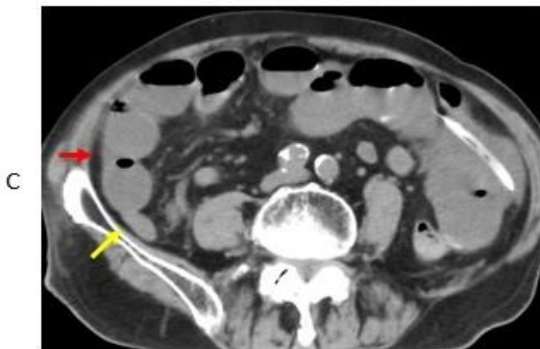
盲腸外側に拡張腸管が認められる。二つのDots signが認められる。  
赤矢印のdot signは拡張腸管と拡張腸管、  
黄色矢印のdot signは拡張腸管と収縮腸管が認められる。  
どちらも近接している。



A

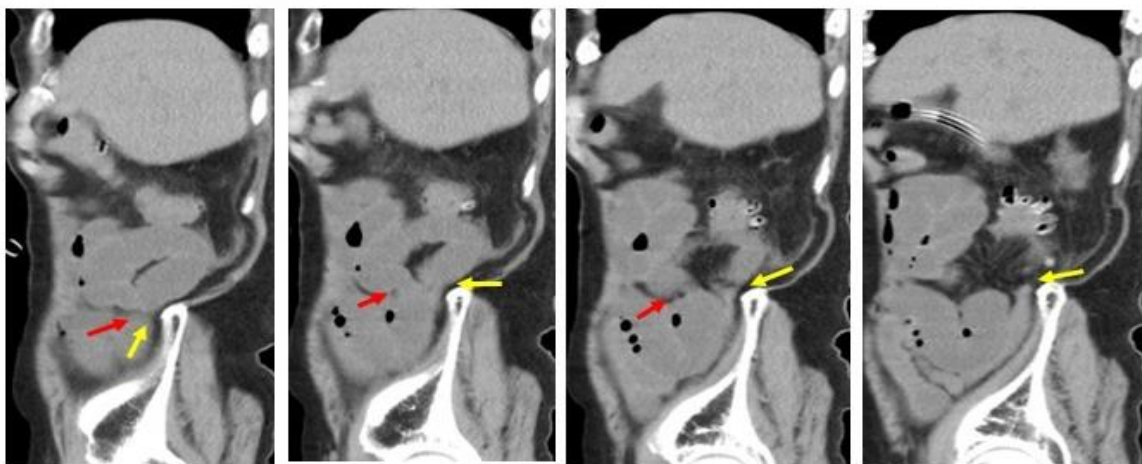


B



C

盲腸の外側に小腸の拡張が認められる。  
二つのDots signが認められる。  
赤矢印のdot signは拡張腸管と拡張腸管、  
黄色矢印のdot signは拡張腸管と収縮腸管が認められる。  
どちらも近接している。



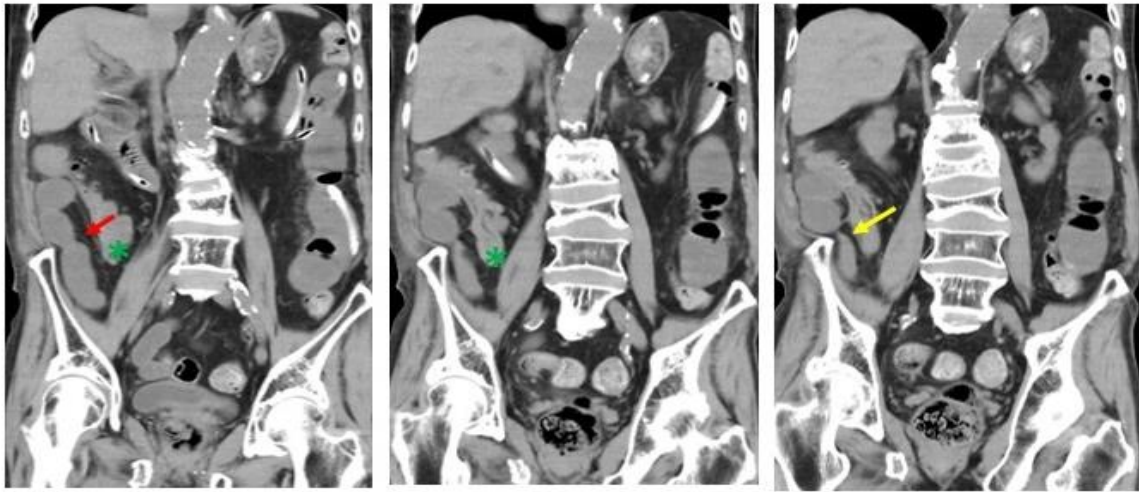
A

B

C

D

盲腸の下外側に小腸が拡張している。二つのbeak signが認められる。  
赤矢印のdot signは拡張腸管と拡張腸管、  
黄色矢印のbeak signは拡張腸管と収縮腸管が認められる。  
どちらも近接している。

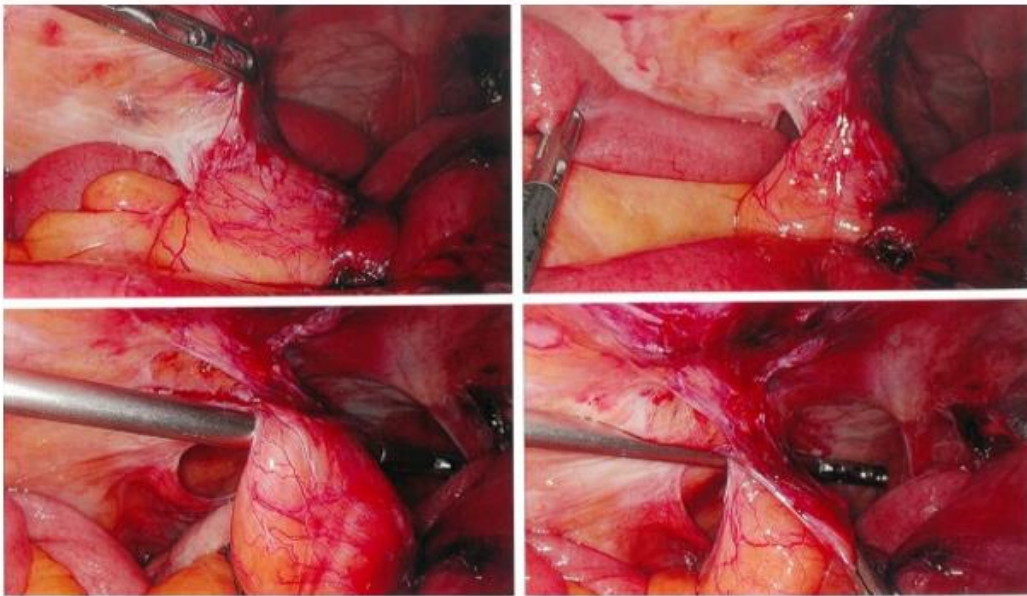


A

B

C

冠状断で盲腸の外側に拡張した小腸が認められる。  
 二つのbeak signが認められる。  
 赤矢印のbeak signは拡張腸管と拡張腸管、  
 黄色矢印のbeak signは拡張腸管と収縮腸管が認められる。  
 どちらも近接している。



術中の内視鏡写真で 盲腸間膜の欠損部に回腸の滑出が観察された。

# 腸間膜浮腫と腹水： 盲腸内ヘルニアの特徴

- 腸管通過障害と併存する場合、腸間膜浮腫と腹水は negative sign であるが、絶対的手術適応といえず。
- 一方、Double beak sign 或いは Double knot sign は手術適応の所見の一つといえる。
- 盲腸内ヘルニアは盲腸外背側に拡張小腸がみられること、傍結腸溝の液貯留を特徴とする。Sagittal image が有用である

English page

2024.6.14